

春一番

地方版のお天気コラムを見ると、この時期、日本列島がいかに南北に長いことがわかる。北海道では朱鞠内で氷点下二十九・五度、厳寒の早朝にダイモンドダストが舞い幽玄の世界。東京では湯島天神の梅が見頃となつて合格した受験生がお礼参りに来ていると聞く。北摂津の山道で“まんさく”的黄色い花が咲き、南国ではヒカソサクラの花びらが半袖シャツのポケットからひらりと落ちたという。

二月ともなれば日本列島の上で真冬と早い春が綱引きを始めて勢力が拮抗している。その微妙なバランスが突如として崩れ、春と冬が大波のごとく揺れて嵐となる。立春が過ぎて日本海を通る発達した低気圧に吹き込む暖かい南風を『春一番』と呼ぶ。ちょうど冬と春との境界線に走る偏西風に乗つて韋駄天走りで襲われる嵐を漁師仲間はこう呼んでいる。

春一番は冬将軍の一瞬のスキをついた春の使者。つかの間あいだ冬枯れの野山にタンポポに代表される早春の色、黄色が攻め入ったようなものだ。四年前の春一番は記録的な暖冬となつた一月のあと、またこれも記録的に早く立春直後に吹いてしまつた。この嵐を境に二転して寒冬ペースに転じ、春を誘い込もうとして吹いた春一番が、早すぎたがゆえ

に、皮肉にもそれまで満を持して待っていたシリヤの冬将軍の出番を演出してしまつた。 東京では日本海の低気圧に向かつて南よりの八级以上の強い風が吹いて、前日より気温が上がりつていることを春一番が吹いたとされている。平年は二月二十八日、春一番で地下鉄東西線の横転事故があつた日である。今も四年前と同じく一月は暖冬ペース。さて今年の春一番は暖冬に追い討ちをかけるか、眠っている冬将軍を起こしてしまうのか、暖冬に追い討ちをかけて早い春の訪れを招くのだろうか。